



B2 ニュースレター

2018/10/10

～次回の協会主催イベント～
道の駅 秋の味覚まつり

JETRO FAM TRIP での手ぶらで釣り体験の様子 2018.9.12

胆振東部地震による観光被害状況

道は9月15日、胆振東部地震による道内の観光被害状況を発表しました。調べによると道内ホテル、旅館などの宿泊予約キャンセルは延べ9万4千2千人分におよび、影響額では11億7千500万円となり、飲食費や交通費なども含めた観光消費の影響額は29億2千円に達すると推計しました。10月にも同様の調査をする予定で、影響額はさらに拡大していくようです。

地震後に設置された、北海道ホテル旅館業連絡協議会や北海道観光振興機構などでつくる「観光被害対策連絡会」が、観光業界団体などを通じた道内宿泊施設へのアンケート調査によると、宿泊キャンセルは、地震被害が大きかった胆振管内や札幌市を中心に全道各地で相次いだことに加え、観光・体験施設でも6万9千人（影響額2億5千万円）、フェリー・遊覧船で2万2千人（同4千万円）、観光バスで4千台（同3億7千400万円）の予約取り消しがありました。

本町の観光被害では、道の駅をはじめ主要観光施設への入込客数の減少や停電による冷蔵・冷凍食品の廃棄などの被害があり、道の駅での9月の推定被害額は約300万円、自然の家では宿泊や仕出しをはじめとする推定被害総額が100万円を超えました。影響は、本町を含め震源地から遠く離れた地域など道内各地に及んでいます。政府など関係機関では、旅行需要の喚起に向けた補助制度の導入や観光キャンペーンの実施、海外に向けた情報発信の強化など風評被害払拭に向けた対策を進めています。

(事務局・本間)



じり通信 No.9 文：山本竜也

黒松内に今も残る角十という地名。かつて黒松内山道を整備したカクジュウ佐藤家にちなんだ地名だという。角十地区出身の内山教育長のお話から角十地区の歴史を辿る。 ページ3

MOVIE/ エイゾウノススメ 文：本間崇文

映画レビュー。現代社会をドロップアウトした若者が、孤独を求めて森の中でツリーハウスを作りながら生活していく。そんな中、1人の女が現れて…。真の幸福を問うリトアニア映画。 ページ3

山に登れば気分爽快 文・写真：辻野健治

黒松内第三の鉱山、後編。郷土史から鉱山の歴史を見つけ出し、その痕跡を探しにいく、人文地理学的レポート。 ページ4

NAGI' S キッチン 文：田村渚

今回のテーマはネギ。
なんにでも合う！万能ネギダレ。 ページ4

<<協会主催・協力イベント>>

観光地域づくりフォーラム

10月20～21日

観光地域づくりフォーラムの一環として、観光協会で行っているプログラムを町民限定で無料で体験ができます。釣り体験や里山サイクリングなど、黒松内の魅力を再発見できるイベントです。

道の駅秋の味覚まつり 10月27日

地震、台風のため、9月14、15日から10月27日に延期になりました。

歴史探訪Ⅳ～松浦武四郎が見た黒松内～ 盛会のうちに終了！

今回で四回目となる歴史イベント、歴史探訪Ⅳ～松浦武四郎が見た黒松内～が9月22日（土）に開催されました。バスツアーには定員を超えるお申込みをいただき、講演会も合わせると60名以上の方々にご参加いただいたイベントとなりました。

バスツアーでは役場を出発し、まずは黒松内発祥の地碑、制札一番の碑、中ノ川バス停留所の地蔵などを見学。あいにくの荒天のため一部車窓からの見学となってしまいましたが、傘をさして見に行く方もいらっしゃいました。その後の黒松内山道跡では参加者のほとんどが傘をさしながら山道跡を歩き、松浦武四郎の足跡をたどりました。寒い中の山道歩きだったので、その後のカフェ beech でのシフォンケーキと温かいお茶の休憩タイムに皆さんもほっこりされたようです。その後は素晴らしいことに天候が回復し、教立寺、龍昌寺はバスから降りてじっくり説明を聞き見学ができました。

また、今回のバスツアーの目玉であるカクジウ佐藤家の見学では寿都町教育委員会より佐藤学芸員にお越しいただき、特別に（カクジウ佐藤家は現在通常未公開）家屋の中をご案内いただきました。

第二部講演会では南後志の歴史を調査されている歴史研究家の山本竜也氏と、開拓のため黒松内に家臣が入植した仙台藩亙理伊達家の第20代当主伊達元成氏にご講演いただきました。山本氏からは黒松内を歩いた松浦武四郎の足跡を、伊達氏からは黒松内の開拓のために伊達家家臣が黒松内に入植した歴史などをお話いただきました。

NHK や道新の取材も入り、テレビニュースでも短時間ですが放送されるなど、非常に多くの方々に関心を持っていただけたイベントになったのではないかと思います。参加者の皆様および関係者の皆様の多大なご協力により盛会のうちに終了することができました。この場をかりてお礼申し上げます。（事務局・澤田）



初の試み！？ グルメフットパス無事終了♪

毎年行っている秋のフットパスイベントとして「くろまつないグルメフットパス」が9月23日（日）に行われました。前日の雨に続き、当日の天候が心配されましたが、爽やかな秋晴れで途中暑さを感じる場面もありました。

今回のイベントはグルメフットパスと題して、コースの道中に黒松内の様々なグルメを配し、黒松内の味覚を楽しみながら歩くことができるイベントとして企画されました。スタート地点の役場を出発した参加者の皆さんはフットパス西沢コースを歩き、途中でくろまつないハーブの会の飲み物のおもてなしやすずやさんの塩羊羹、ふぁーむいん富田さんのあげいも、ファーム関根さんのカシスジャムなどに舌鼓をうっていました。そしてゴールのトワ・ヴェールではトワ・ヴェールで作られたチーズやウィナー、またとうふ処みうらさんのお豆腐や歌才自然の家のパン&モクズガニ汁でランチ。爽やかな秋の青空の下で食べる黒松内のグルメは美味しさもいつもよりアップしていたのではないのでしょうか？

初めての試みで色々準備に戸惑う部分もありましたが、町内の多くの飲食店、生産者の皆様のご協力のおかげで無事成功のうちにイベントを終了することができました。

（事務局・澤田）



じり通信 No.9 「角十地区の開拓者」

文：山本竜也

道の駅「くろまつない」から国道5号線を蘭越方面にしばらく走ると、黒松内ジャンクションの入口が見えてくる。が、その手前に、「角十」という小さな看板があることに気付く人は少ないだろう。

1896年（明治29）、歌棄一の漁業家であった佐藤家は、ほかの出資者と共同して、当時の熱郭村の一角に歌棄同盟農場を設立した。佐藤家の家印（いわゆる屋号）であるカクジュウにちなんで、一帯は角十地区と呼ばれるようになった。

かつて農場の中心部であった広場には、いま、大きな杉の木が立ち、開拓の祈念碑が並んでいる。その隣に平屋建ての家がぼつんと立つ。

ここは、現黒松内町教育長の内山哲男さんの実家である。内山さんによると、新潟県の三条に1876年（明治9）に生まれた祖父の秀吉さんが妻のベンさんとともに1898年（明治31）に移住したのが一家の開墾のはじまりだという。内山さんが1953年（昭和28）に生まれたときには、すでに秀吉さんは亡くなっていたが、ベンさんは健在で、昔話をいろいろ教えてくれた。

「新潟から乗ってきた北前船を歌棄沖で小舟に乗り換えたということです。このとき、燭台、香炉、花立てを腹に巻いたと聞いています。開墾する前は、あたりは一面大木の森だったそうです。それを伐採して焼き畑を作りました。最初は大根の種を植え、葉を味噌汁にしたので、いまでも私の家では6月に大根の葉の味噌汁を食べています。切りだした材木にはカクジュウの焼き印を押して、白井川・角十川・熱郭川に流しました。下流でカクジュウが受け取って、下流からは米・味噌・醤油などが運ばれてきました。集落の盆踊りは、故郷の方を向いて皆が線状に並んだそうですよ。故郷から来た人がだんだん減ると、輪になって踊るようになったとベンばあさんが話していました」

開拓25周年の記念碑には43人の名が彫られているが、現在、角十地区に住むのは9軒だけとなった。うち農家は1軒だけである。現在は教育長という職にあるため、内山さんも黒松内市街地に住むが、祖父母が生き、父母が生き、そして自分が生まれ育った角十地区にいずれは戻るつもりだという。



MOVIE/ エイゾウノススメ 文：本間 崇文

「森の生活」2006年 リトアニア/ドイツ 時間：90分 DVD

【スタッフ&キャスト】監督・脚本：クリスティヨナス・ヴィルジューナス 撮影監督：ヴァルダス・ナウジュス

現代社会からドロップアウトし、ひとり孤独を求め、森の中で生きることを選んだ若者を描いた映画。建築家・バロンは、都会での生活に疲れ、森へと向かう。そこで彼は誰にも邪魔をされない自分ひとりの空間としてツリーハウスをひとりで作り、森の中で生活を始める。しかし、望んでいた生活が現実となるのだが、彼の心はなぜか満たされずにいる。やがて、若者グループが森にやってきてバロンはひとりの女の子と出会う。。監督は「ひとはひとりでは生きていけない」ということをいいたかったのだろうか。それにしても、ひとり黙々とツリーハウスをつくる主人公と森の静粛に惹きつけられる。



～山に登れば気分爽快～ 秘境・・・そうそう その十二の二 「黒松内 第三の鉱山？」

文・写真：ノースランド 辻野健治

こんにちは～、ブナの森登山ガイド辻野です。

企画調査にほぼ1年費やした、大長編作「黒松内 第三の鉱山？」も今回の後編にて終り。何だか、人文地理学的な作品かな・・・と勝手に思っています。

まずは、札幌にある、国土地理院北海道測量部で、昭和22年の地形図をゲット！載っていました、それらしき鉱山マーク。あれ～この位置は、白井川ブナ林一帯ではないか！お～っ、町村界データを見ると黒松内町内にある。もしかしてここは、黒松内第三の鉱山ではないかな。



↑昭和20年代の地形図 黄色丸が鉱山跡



↑謎の平地

次に、蘭越町図書館で蘭越町史を読解するが、書かれていない・・・ふと、目名・田下郷土史なるものを発見。それには、大玖鉱山に関係する事が書かれていた、昭和9年に開鉱、68名の鉱員がいて、盛大なお祭りもおこなっていたとのこと。JR上目名駅まで金・銀・銅を岩内町国富まで運び、精選していた。そして昭和20年に閉山したらしい。なるほど～。

さてさて、鉱山跡と思われる場所、規模などわかったので、3月の高曇りの日、現地調査に出発。まずは雪で覆われた白井川ブナ林散策路からアプローチ・・・これは秘密でして・・・GPS片手にどんどん奥地へ進みます。この辺りのブナは昨年豊作だったのか、ブナの実がたくさん落ちていました。治山施設の奥まで来ました。ん～中々それらしい史跡は見当たりません。やはり雪に埋まっているのだろうか？確認出来るのは謎の平地だけ・・・。残念です。やはり、残雪期か無雪期に訪れなければと思う次第です。

そうそう 目名峠の春の滝も、探検に行きました。これは、JR函館線沿いに排水路があり、その吐口が煉瓦作りのトンネルとなっていて、融雪水が多い春に滝状になっているものでした。

春の滝・・・トンネル排水口→



NAGI'S キッチン



今回は、長ねぎ。

寒い季節にピッタリな、万能だれを道の駅販売員のたしろさんが教えてくれました。“たしろさんのねぎだれ”

湯豆腐、水炊き、なんでもOK！私は水晶鶏で頂きました。

材料（4～5人分）

- ・長ねぎ 1本
- ・生姜（チューブ） 5cm程
- ・花がとお（個包装タイプ） 小1パック
- ・しょう油かめんつゆ 上記の材料がひたる位の量

作り方

- ① 長ねぎをみじん切り。 ☆白い部分と緑色の部分どちらもみじん切りに。
- ② 切った長ねぎを耐熱容器に移し、電子レンジで温める。
☆500Wで40～50秒、ねぎに透明感がでたらOK！
- ③ 温まった長ねぎに生姜チューブを5cm程搾りだして、花がとおも1パック入れる。
- ④ ③に好みのしょう油かめんつゆ（またはめんみ）を具材がひたる位まで入れる。
☆甘辛い味が好きなら、めんつゆの方がおいしく仕上がります。
- ⑤ よく混ぜたら完成。

お好みで、みょうがやシソを入れてみるのも美味しいかも…。余ってしまったら、冷蔵庫で4～5日は保存もできます。かつおを足して、おにぎりの具にアレンジしても美味しいとたしろさんが教えてくれました。ぜひ、ご賞味あれ。

観光協会 HP にて「B2」バックナンバーがご覧になれます。www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡下さい。

発行人：一社) 黒松内町観光協会 発行日：2018年10月10日 次回発行予定は12月末

TEL/FAX：0136-72-3597 MAIL：bunatatourism@gmail.com